

---

# 期末テストは何故やるの？

印殷

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

期末テストは何故やるの？

### 【Nコード】

N1456D

### 【作者名】

印殷

### 【あらすじ】

期末テスト、期末考査は何故行うのか…。小さなテストをはじめ、さまざまな社会問題に切り込んでいきます!!!

期末テスト（前書き）

若干、堅苦しい文章ですが、ご容赦ください。

## 期末テスト

期末テスト・・・聞くだけで、気が重くなってくる。ところで、何故期末テストは行うのだろうか。期末テストを行うのは誰のためなのか。そして、期末テストを通して何を伝えたいのか。

そもそも、期末テストとは何なのだろうか。「学校で、それぞれの教科や科目に、どれだけの学習効果や、教育効果があるのかを試す試験である」と定義してある。と言う事は、各教科での日々の積み重ねが、いかに実践で応用できるのか。また、その科目について、どれだけの学習効果、教育効果が出ているのかを明確にするための試験ではないのか。しかし、一般的に学校では「何月何日何曜日に何何のテストをする」と言う事を生徒に明確にあらわし、また「何の教科の何からなにまで」という範囲までもを明確に掲示している。そうする事により、生徒はただひたすら、テストの日に向けて勉強するであろうことが予測される。と言う事は、本来の“学習効果”“教育効果”というものはあくまでも個々の基礎であり、身についた真の学力ではないのではないだろうか。その日に向けて勉強した結果、記憶に宿す事の出来たものが多いのではないだろうか。と言う事は、“学習効果”と言うのは、個人個人の勉強量によって変わってくるし、基本的に“教育効果”を定期テストで計る事は少し矛盾しているのではないだろうか。ここで、一つ例を挙げてみよう。

「麗子さんは、英語が全くわかりませんでした。なので、テストに向けて一生懸命勉強しました。するとどうでしょう。なんと、あんなに英語のわからなかった麗子さんは、テストで100点をとりました」

100点と言うのは極端だがこの例であると、元々、麗子さんは100点を取れるほどの英語の知識は持ち合わせてはおらず、学校での“学習効果”と言うのは皆無に等しく、また、テストに向けて焦りを感じ自学自習した事によって得られた点数なのである。と言う

事は、学校での“教育効果”というのもまた、皆無に等しいのである。また、最悪の例を挙げてみよう。

「麗子さんは、英語が全然わかりませんでした。そのため、テストが近づいてくると同時に焦りを感じ、勉強をしました。が、全く身につかずとうとう当日を迎えてしまいました。麗子さんは、諦め、潔く赤点を取る事にしました。テストが始まり、重苦しい空気の中、麗子さんは適当に『記号で答えなさい』と言う問題を解いていきました。テストが返却され、点数を見た麗子さんは驚きました。なんと、適当に解いた問題が2問あっていて、2点取れてしまったのです」

どうだろう。まさに最悪の例としか言いようがない。勿論、適当に解いて2点と言うのは全く意味を持たない点数であり、麗子さんの身の為にもなっていない。一番いけないのは、自学自習での“学習効果”“教育効果”すら得られていない事である。これでは、何の意味で期末テストを催しているのか全く意味がわからない。

今の話は、麗子さんサイドからだったが、学校側はどうなのだろう。

## 期末テスト

さて、学校サイドから見てみるとどうなのであるだろうか。

学校側から、何故期末テストを行うのか、という事を考えると麗子さんサイドより答えは単純明快である。その答えはというと、学校側（教師）は一人ひとりの生徒のことを完全に把握する事が不可能である。ということだと、私は考える。ということかということ、一クラス大体平均して、20人から多くて45人くらいだと思われる。そんなたくさんの生徒がすし詰め状態になっている教室の中で、教師はたった一人である。各地によつては、T・Tという担当教師の補佐をつけている学校が存在するが、私の経験上まれである。一クラス一担任であれば、それで済むかもしれないが担当教科に着き、一担任であつた場合、一クラス40人どころか、何百という生徒を見なければならぬのである。そんな事は、誰であろうと無理である。自信を持って、「私は100%全生徒を見ている。私の目からこぼれている者はいない」と言いきれぬ教師が果たして存在するのであるだろうか。せいぜい「私は90%の生徒を見ているが、見落としてしまふ事もあるし、時間や諸々の関係で見られなかつた」という具合であろう。逆に、前者のような教師がいたら私は恐ろしくてたまらない。あくまでも個人的な意見ではあるが、そんな完璧に生徒を見られるのは、某ドラマで元宝塚女優が演じた彼女くらいであろう。

結果的に、学校側が期末テストを行うというのは、教師の目の届かない範囲をカバーするためである、と言えるのではないだろうか。決して、教師が楽をしているという訳ではない。私も、テストを催す立場の人間ならば当然のことであり、仕方の無い事だと思つと思う。だが、それではいけないのだと私は思う。先日行われた、“全国学力テスト”。あの結果を受け、何より驚いた事がある。それは、“中学校三年生、小学校六年生において、東北の県が上位を占めていたことである。東北にお住まいの方には大変申し訳ないと思つので、

先に陳謝しておく。私の偏見であると思われるかもしれないが、東京を中心とした首都圏で上位を占めると私は予測していた。そこにあのニュースが飛び込み、大層驚いた。そこで、私なりの考察をだしてみた。それは、東北圏は首都圏に比べ、一クラスの生徒数が少ないと思われる。という事は、10人の教室に一人（もしくは二人）の教師、四十人の教室に一人（もしくは二人）の教師がつくのでは、どちらが生徒と教師の距離が近いであろうか。一口に距離と言っても、何十個もの机と、教卓の間のような物理的距離もそうであるが、教師が一人一人の生徒と接する時間、という心と心の距離でもあるのではないだろうか。どこの都道府県でも、私立を除き、授業の一コマの時間というのが決まっていると思う。この一コマの中で、四十人相手の教師は全員を回り、授業をし、質問に答えるというハードな事を行っている一方、十人相手の教師であれば、一人ひとりにかける時間を長く取る事が出来るし、一人ひとりとの物理的距離も近く取れる。この、教師と生徒の関係、というのも成績の一因になっているのではないか、と思う。

“教育効果”や“学習効果”のまえに、生徒と教師との人間としての一対一の対話が必要なのだと私は思う。

## 期末テスト（後書き）

だらだらと長い散文ですが本当の意味での、“成績”とは何なのか、という事を考えた結果です。

読んでいただきありがとうございます。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1456d/>

---

期末テストは何故やるの？

2010年10月8日15時15分発行